

第 2 回 多摩市総合計画審議会会議録（要旨）

■開催日時 平成 30 年 7 月 4 日（水） 午後 7 時～午後 9 時

■開催場所 多摩市役所 3 階特別会議室

■出席委員 15 名（50 音順）

飯田 佳子委員、伊藤 雅子委員、尾中 信夫委員、小島 豊委員、榊 つきみ委員、
鈴木 充委員、妹尾 浩也委員、田村 豊委員、中島 康予委員、野坂 美穂委員、
長谷川 尚美委員、藤井 敬子委員、藤本 潔委員、松井 望委員、横山 誠一委員

■欠席委員 なし

■事務局

阿部市長、浦野副市長、藤浪企画政策部長、田島企画課長、秋葉企画調整担当主査、
西村主事、三富主事

パシフィックコンサルタンツ(株) 齋藤氏、森下氏

■傍聴者 なし

■議事日程

開会

- 1 前回要点録の確認
- 2 市民ワークショップの詳細とご案内（報告）
- 3 各種データ等からみる現状と課題について（報告）
- 4 市長公約の反映等について（報告）
- 5 計画改定の見直しの方向性について（協議）

6 その他

閉会

会 議 録 (要旨)

【開会】

出席委員は15名であり、過半数の出席があるため審議会は成立した。

前回欠席者である野坂委員及び、市の人事異動に伴い変更となった浦野副市長、藤浪企画政策部長より挨拶。

【1 前回要点録の確認】

前回要点録（資料1）の確認を行い、修正等無く了承された。

【2 市民ワークショップの詳細とご案内（報告）】

事務局より資料2について説明。

会長 ワークショップへは私が出席し説明等を担当することを考えているが、他に出席や説明等を希望される委員がいれば本審議会終了後に教えて頂きたい。

【3 各種データ等からみる現状と課題について（報告）】

事務局より資料3から資料7について説明。

委員 資料4の17ページ以降について、2017年版や2018年版ではなく2016年版の骨太の方針を主に引用しているが、何か理由はあるか。

事務局 資料4については、17ページ以降は主に9月以降の施策の検討に用いることを想定し今回は参考情報として提出している。9月までには2018年版の情報も盛り込んだ上で議論を行えるよう検討していきたい。

委員 資料4について、まず町丁目別の高齢化状況を住宅の所有関係別の立地状況と合わせて考察するとより有効な分析になると考える。もう一点、通勤・通学先のデータを見ると、23区から市内や近隣市に通勤・通学先が移りつつあり、ライフスタイルの変化という意味で大きな変化と考える。多摩市住宅マスタープラン改定懇談会の資料等を参考に、経年推移の掲載を検討して頂きたい。

会長 市でデータを確認の上検討して頂きたい。統計データ分析の全体を通して、市制施行時からの長期的な推移、計画期間ごとの推移が分かるとよい。作業量も考慮しつつ検討して頂きたい。

委員 聖蹟桜ヶ丘駅周辺と多摩センター駅周辺では小売業の経年推移の状況が異なっていたと記憶している。商業統計は集計方法が変更され利用しにくくなっているが、商業統計に代わるデータ等があれば、近年の状況について分析して頂きたい。

会長 利用可能なデータの所在も含めてご確認頂きたい。重要テーマ検討に当たっては、次期計画に対して個々の情報がどの程度影響を与えるものか考慮すべきと考える。

資料4については、一時点のデータだけでなくデータの経年推移の状況を確認しておく必要がある。

また、多摩26市間の比較だけでなく、市内の地区別の状況も捉えられると良い。

【4 市長公約の反映等について（報告）】

阿部市長より資料8について説明。

会長 市長公約の計画への反映のあり方については、本審議会の諮問者である市長の検討事項であるが、データ・社会潮流とバランスを取れると良い。

【5 計画改定の見直しの方向性について（協議）】

委員 計画期間を4年としたのは市長任期と連動させ市長の意向を反映させるためであるため、市長が市政運営をしやすいような計画にできれば良いのではないかと。

委員 都市農業の振興について、引き続き、多摩市の農業を市民との関係を強く持ちながら更に発展させていきたい。農地が非常に少ないが、周りが全て消費者であるため非常に有利な条件と捉えることも出来る。また、特色ある農業を作り上げるため大学の支援も頂きながら様々な作物の栽培を試みており、こちらも引き続き推進していきたい。また、学校での環境教育等も進めていきたいと考えている。

委員 市長公約を十分取り入れることが基本と考える。その中で、現計画にない事項として、例えば多摩市立図書館が挙げられる。再整備の動きが具体化し始めたが、知の地域創造拠点と目標を掲げたことが重要である。また子育てで言えば、多摩市出身者が戻って来たいと思える魅力的な教育を確立すべきであり、持続発展教育・ESDについても、データには表れていないものの教育現場の実感としては取組の成果は感じている。賛否はあるが、例えば「日本一勉強ができる子を育てよう」等のスローガンを打ち出すなど、メリハリのついた項目の立て方をすべきと考える。

委員 教育の場で福祉に関連する内容を教える授業や子ども民生委員活動等が出来るとう良い。また、将来の多摩市をより良いまちにするためには優秀な職員の育成が重要と考える。もう一点、子ども・高齢者の居場所・役割づくりを推進して頂きたい。子どもの貧困の連鎖は断ち切る必要がある。また永山モデルも引き続き推進すべきと考える。

委員 医療体制の整備に力を入れて欲しい。現在多摩市には二つの大病院があるが、どちらも経営に不安があるため、病院体制の整備は市として取り組むべきと考える。また、在宅医療体制が非常に手薄なため、地域包括ケアの推進のためにも体制を整備する必要があると考える。

委員 重要テーマの設定にあたっては、俯瞰的な視点で考えること、多摩市の弱みを埋めることよりも強みを伸ばすことを重視すること、市民の顕在的ニーズだけでなく潜在的ニーズを汲み取ることの3つの考え方を設定すべきと考える。その他、市が過度に自らを課題先進地域と打ち出すことは、特に若者に対して悪影響なのではな

いか、むしろ、取り組みの実績を前面に打ち出すべきではないかと考える。もう一点、計画に記載がないものの欄では、成果指標の状況と市民アンケート調査結果のギャップをどのように捉えたらよいか疑問に思っている。

委員 若者アンケート調査によると、子育て支援施策の情報発信が不足しているため、情報発信を強化すべきで、SNSを通じた情報発信が特に効果的と考える。他には、子育て環境や見守りの観点から高齢者との交流に前向きな若年層が多いという結果も出ており、多世代の交流により共助を促進すべきと考える。また、子育て用具を市が仲介してシェアする仕組みが実現できないか。最後に、大学が多摩市内の農家と連携したい場合の窓口が分かりにくいいため、集約できるとよい。

委員 資料4の多摩市での雇用の状況を見ると、多摩市は働く場所になっているものの住みたい場所にはなっていないという風に取り残られるため、地域活性化のためには若年層に住みたいと思われるまちにしていくことが重要と考える。あわせて、今後交通網整備が進展する見込みであることを鑑みると、企業誘致強化が重要と思われる。もう一点、子育て環境には、コミュニティの働きが重要と考える。経済活性化と子育て支援の二つを充実しなければ若年層に魅力的でないと思われるため、子育て経験のある元気な高齢者が多い特徴を生かし地域全体で子育て支援ができるとよい。

委員 様々な地域課題がある中で地域コミュニティの交流が不足していると思われるため、相互に支援し合える関係を築けるとよい。また、多摩市ではマンション建設後に世代構成の偏りによる問題が生じており、居住世代が偏らないよう住民の住み替え等を促進する仕組みが構築できないかと考えている。また、「いつまでもみんなが住み続けられる安全で快適なまち」という面では、ふるさと教育が重要と考える。また、健康長寿については、多摩市には比較的若い高齢者が多いことが要因と考えており、今後も健康長寿が維持できるか懸念している。また、近隣の知人等から、多摩市の住宅価格が高くなったためより郊外へ移住するという話を聞いた。

委員 地方分権の観点から国で子育て支援新制度の規制緩和が進められており、長い目で判断して多摩市として取り組みを進める必要がある。また、多摩市においても子どもの貧困問題は見られるため、具体的な支援が急務である。また、計画に追記すべき事項として、ごみやフードロス、エネルギー等の環境問題について、シビックプライドに繋がるものでもあるため包括的に先進的な取組を進めるべきと考える。

委員 健全財政を保つこと、バランスのいい人口構成を保つこと、高齢者が元気でいられることが重要と考える。健全財政を保つためには企業誘致や商工業の発展が重要であり、またバランスのいい人口構成を構築するにあたっては、子育て世帯の流入のためには住環境と子育て支援と健康が重要と考える。高齢者の健康維持では、健康を支えるネットワーク及び、権利擁護と介護予防が重要と考える。

委員 どの地域支援活動においても担い手確保は大きな課題であるため、大学・自治体等と協力し活動の幅を広げることが重要である。特に、行政の後押しが最も効果的である。また、近年、高齢者等が地域のイベント等に参加したくても交通手段の問

題で参加出来ないケースがあると聞いており、よりきめ細やかな交通支援が頂きたい。次期計画で追加すべき事項としては、分野ごとの縦割りではなく地域課題ごとに包括的に行政が取り組む仕組みがあると良い。

委員 市長公約に関連する箇所が重要と考えるが、指標のとり方が適切でない箇所があるため、見直すべきと考える。また、SDGs（持続可能な開発目標）の考え方を全体に取り入れるべきと考える。もう一点、交通インフラの現況と市民評価のミスマッチについてよく検証すべきと考える。他市と比較しても十分に交通インフラは充実しており、良さをしっかりアピールしていくことが必要と思われる。

委員 重要テーマは市民の関心が高いものを設定するべきであり、子育てに最適な街づくり、高齢者が健康で生き生きと生活できる街づくり、魅力ある街づくりの三つが総合的なテーマと考える。子育てについては、求められる情報の的確な発信が課題である。例えば多摩ニュータウンの将来像が明確に打ち出されるとポジティブなイメージが生まれるのではないかと考える。また、市民活動については、参加方法が分かりにくいことが課題と考える。それから、高齢者の健康増進の問題については、今後も一層重要となるため、計画を策定して実施していくことが重要と考える。魅力ある街づくりについては、多摩センターと聖蹟桜ヶ丘を中心に力を入れていくと魅力的なまちになると考える。また、現計画は網羅的である一方で重点が見えにくい。今後は網羅的に政策を充実させることは難しいことから、より重点課題を押し出すとインパクトがあって良いのではないかと考える。また指標についても、目標達成が難しい指標はその要因や今後のあり方等を十分に議論すべきであり、また既に目標を達成した指標は目標の見直しを検討すべきと考える。最後に、大規模マンション建設による若年層の呼び込みと企業誘致の二つも経済活性化に重要と考えるが、これらは計画に記載するまでもなく行政が主体的に取り組むべき課題と考える。

【6 その他】

第4回審議会の日程は9月4日とすることです承された。

会長 市民ワークショップでの説明を担当することを希望される委員がいれば終了後に教えて頂きたい。その他、委員から意見・要望等はあるか。

委員 今回提出した意見についての意見交換の機会は設けられるのか。

事務局 次回設ける予定である。事務局で整理した論点ごとにグループで議論頂く形も検討中であり、また案内させて頂きたい。

会長 本日の意見には意見が分かれるものもあると思うので、整理させて頂きたい。

【閉会】